

岩手県感染症週報

平成16年第50週（12月6日～12月12日）

岩手県結核 感染症情報センター

第50週の概要

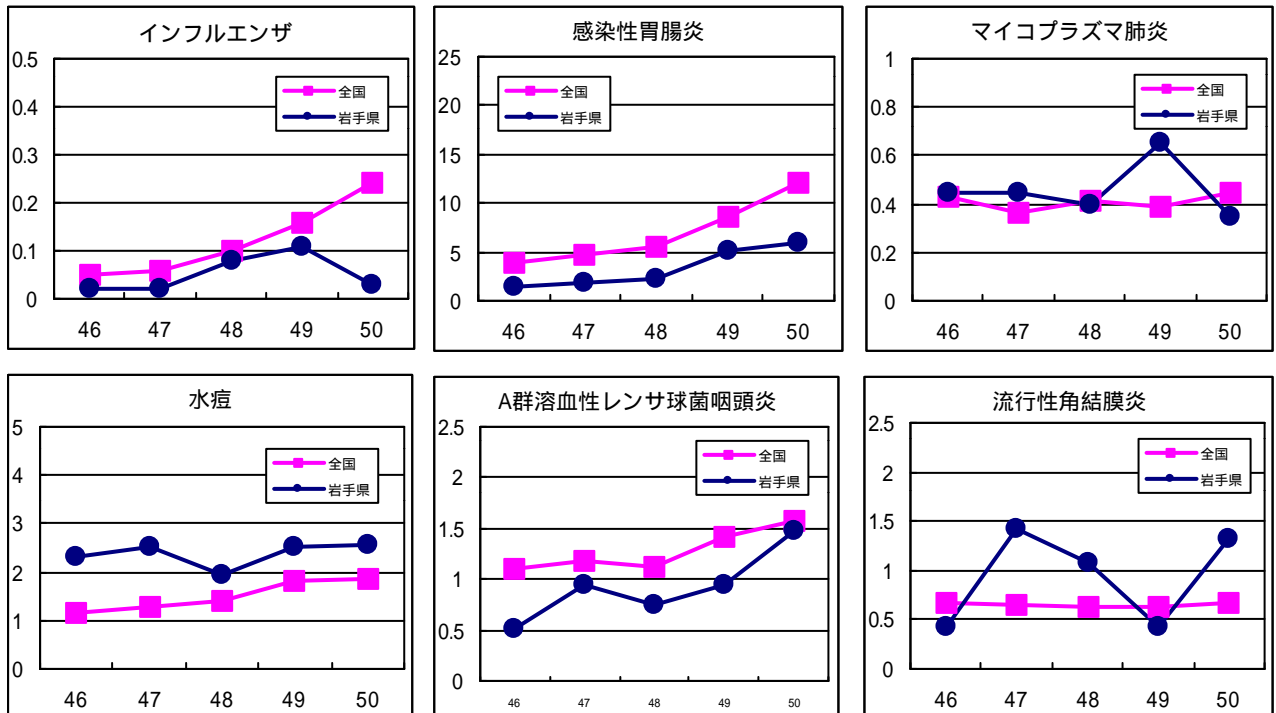
- | | | |
|-------|---------------------|--------------------|
| 1類感染症 | } 患者発生の報告はありませんでした。 | 4類感染症 |
| 2類感染症 | | 5類感染症（全数把握対象疾患） |
| 3類感染症 | | ・患者発生の報告はありませんでした。 |

5類感染症（定点把握対象疾患）

- ・感染性胃腸炎は、前週から患者数が多い北上地区でさらに増加し、定点あたり患者数が31.7人（前週、同26.3人）となりました。北上地区以外でも、花巻、一関、二戸地区で患者数が増加しています。患者の年齢層は1歳から6歳までが特に多くなっています。保育所・幼稚園などでは一人患者が発生すると、手や口などを介した二次感染により患者発生がだらだらと続くことがあります。感染経路を遮断するには遊具や食器、ドアの取っ手などの消毒、徹底した手洗いが必要です。
- ・インフルエンザはこの週には宮古地区から2例の患者発生の報告がありました。厚生労働省が行ったインフルエンザ流行シーズン前の抗体保有状況調査では、0-4歳、20歳代及び30歳代の抗体保有率が過去4年間で最も低くなっています。全国的な流行が始まる前に3歳以上の子どもと成人の予防接種、流行期には3歳未満のこどもの隔離対策が必要です。
- ・溶レン菌咽頭炎は花巻、北上、水沢、大船渡地区で患者が増加しています。
- ・水痘は花巻、二戸地区で患者が増加しています。

最近の注目疾患（定点あたり患者数の過去5週の動き）

（疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意）



定点把握対象疾患（過去5週の動き）

（定点あたり患者数）

疾病名	地域	週					流行傾向	
		46	47	48	49	50		
インフルエンザ	岩手県	0.02	0.02	0.08	0.11	0.03	→	
	全国	0.05	0.06	0.1	0.16	0.24		
咽頭結膜熱	岩手県	0.08	0.14	0.08	0.16	0.18	→	
	全国	0.15	0.17	0.19	0.24	0.27		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	岩手県	0.51	0.95	0.74	0.95	1.47	↗	
	全国	1.1	1.19	1.12	1.42	1.58		
感染性胃腸炎	岩手県	1.41	1.89	2.24	5.11	6.03	↗	
	全国	3.86	4.77	5.62	8.69	12.14		
水痘	岩手県	2.3	2.54	1.95	2.53	2.55	→	
	全国	1.16	1.29	1.42	1.83	1.84		
手足口病	岩手県	0.51	0.46	0.32	0.32	0.16	→	
	全国	0.92	0.89	0.86	0.74	0.67		
伝染性紅斑	岩手県	0.38	0.3	0.45	0.39	0.45	→	
	全国	0.16	0.16	0.19	0.18	0.18		
突発性発疹	岩手県	0.51	0.68	0.53	0.63	0.37	→	
	全国	0.68	0.7	0.66	0.7	0.65		
百日咳	岩手県	0	0	0.03	0.03	0.03	→	
	全国	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02		
風疹	岩手県	0	0.05	0	0	0	→	
	全国	0	0.01	0	0	0.01		
ヘルパンギーナ	岩手県	0.3	0.32	0.21	0.16	0.13	↘	
	全国	0.08	0.08	0.09	0.08	0.06		
麻疹（成人麻疹を除く）	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0	0	0	0	0		
流行性耳下腺炎	岩手県	0.84	0.65	0.58	0.37	0.82	→	
	全国	1.1	1.05	0.99	1.16	1.17		
急性出血性結膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.01	0.01	0.03	0.01	0.02		
流行性角結膜炎	岩手県	0.42	1.42	1.08	0.42	1.33	→	
	全国	0.68	0.65	0.64	0.62	0.67		
RSウイルス感染症（患者報告数）	岩手県	1	0	4	1	2	→	
	全国	331	453	506		0		
細菌性髄膜炎	岩手県	0	0.05	0	0	0	→	
	全国	0.04	0.01	0.01	0.02	0.02		
無菌性髄膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.04	0.02	0.02	0.04	0.02		
マイコプラズマ肺炎	岩手県	0.45	0.45	0.4	0.65	0.35	→	
	全国	0.43	0.36	0.41	0.39	0.45		
クラミジア肺炎（オウム病を除く）	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.01	0.02	0.02	0.01	0.02		
成人麻疹	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0	0	0	0	0		

【流行傾向の見方】

- 無印：ほとんど患者が発生していません
- ：患者が発生しています
- ↗：警報値を超えた地区が1～2地区あります
- ↘：多くの地区で警報値を超えています

全数把握対象疾患（過去5週の動き）		（患者発生数）							
分類	疾病名	岩手県					全国		
		(週) 46	47	48	49	50	累計	50	累計
一類 感染症	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0
二類 感染症	コレラ	0	0	0	0	0	1	0	79
	細菌性赤痢	0	0	0	1	0	4	13	557
	腸チフス	0	0	0	0	0	0	0	64
	パラチフス	0	0	0	0	0	0	3	82
	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0
三類	腸管出血性大腸菌感染症	1	2	1	3	0	82	23	3596
四、 五類 感染症	アメーバ赤痢	0	0	0	0	0	0	7	549
	エキノкокクス症	0	0	0	0	0	0	0	24
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	0	0	0	0	38
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	急性ウイルス性肝炎	0	0	0	0	0	0	2	282
	Q熱	0	0	0	0	0	0	0	7
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	0	0	0	91
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	1	0	0	3	1	158
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	52
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	0	0	11	1065
	コクシジオイデス症	0	0	0	0	0	0	0	6
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	2	0	82
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	髄膜炎菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	22
	先天性風疹症候群	0	0	0	0	0	0	0	9
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	ツツガムシ病	0	1	0	0	0	1	17	250
	デング熱	0	0	0	0	0	0	0	44
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	1	67
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	0	5
	乳児ボツリヌス症	0	0	0	0	0	0	0	0
	梅毒	0	0	0	0	0	0	8	487
	破傷風	0	0	0	0	0	1	2	95
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	47
	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	0	0
	発疹チフス	0	0	0	0	0	0	0	0
	マラリア	0	0	0	0	0	0	1	71
	ライム病	0	0	0	0	0	0	0	4
	レジオネラ症	0	0	0	0	0	1	2	149
ウエストナイル熱	0	0	0	0	0	0	0	0	

昨年11月5日に感染症法が改正されたことに伴い、調査対象疾患が一部改正されましたが、本週報では当面の間、改正前の分類による情報をお届けしております。
できるだけ早い時期に、新しい分類による情報をお届けするよう準備していますので、ご了承ください。

今注目の感染症

E型肝炎ウイルス感染事例について

E型肝炎は経口感染する疾患で、従来水系感染が主であると考えられており、インド亜大陸、中央アジア、メキシコ、北アフリカ、中国などでの大規模アウトブレイクが知られています。平均6週間の潜伏期を経て、全身倦怠感、食欲不振、黄疸などの症状で発症します。通常は約1ヶ月で完治し、慢性化はしませんが、ときに劇症化して致死的になることが知られており、妊娠第3三半期では致死率が20～30%にも上ります。

今般、北海道において発生したE型肝炎事例については、現在、北海道において、感染症及び食中毒の両面から調査を実施しているところですが、原因として飲食店で豚レバー等の豚由来の食品を十分に加熱しないで喫食した可能性が考えられています。

また、輸血の安全性を考慮し、感染率の高い北海道において献血時の問診を強化し、ブタ、イノシシ等の喫食歴がある場合には、その者の血液にE型肝炎ウイルスの高精度検査を行い、感染が確認されれば輸血に使用しないこととしています。

急性の脳症を疑う事案の発生について

標記については、スギヒラタケについて腎機能の低下している方への安全性が確認されるまでの間、これらの方々に対しスギヒラタケの摂取を控えるよう注意喚起してきたところですが、今般、新潟県から公表された急性脳症を疑う死亡例では、腎機能障害の有無が不明であることがわかりました（スギヒラタケを発症3日前に摂食）。

つきましては、現在、急性の脳症を疑う事案についてスギヒラタケの摂食との関係に限らず広く原因究明のための調査がなされているところであり、原因が究明されるまでの間、念のため、腎機能の低下していない方も含めた一般の方でもスギヒラタケの摂取を見合わせますようお願いいたします。

病原体検出情報

この週に検出した病原体はありません。

集団感染情報

この週には集団感染情報ははありません。

医療機関からの情報

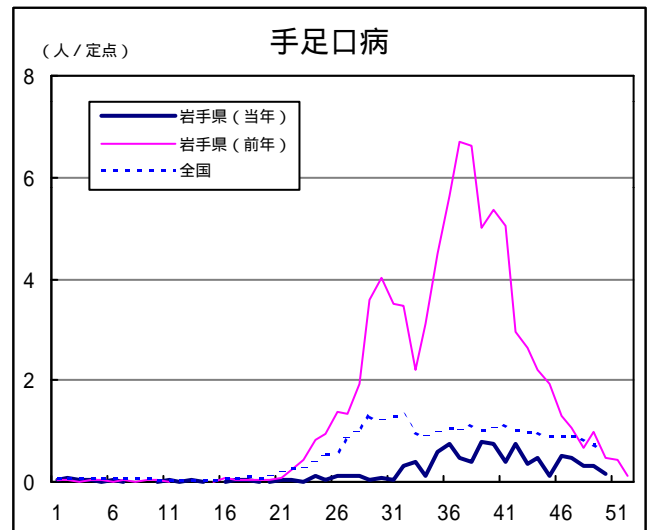
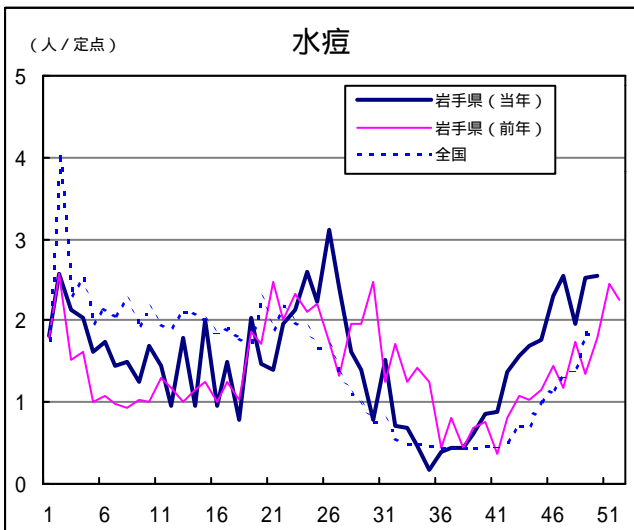
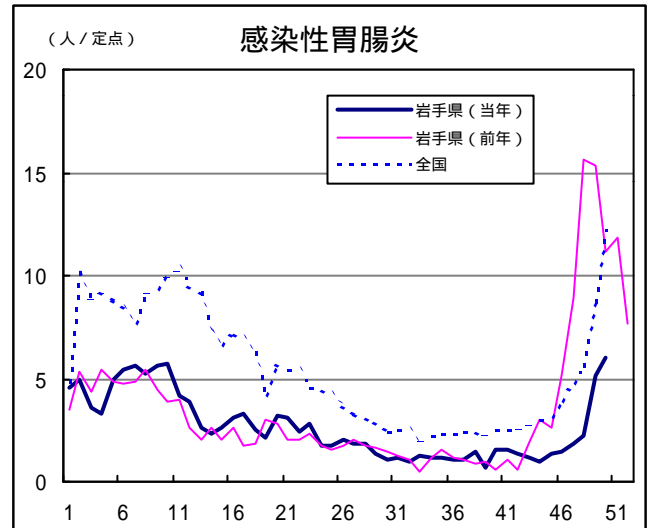
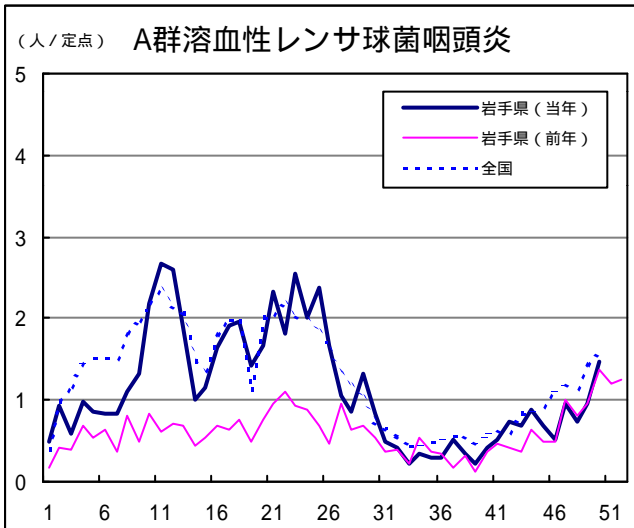
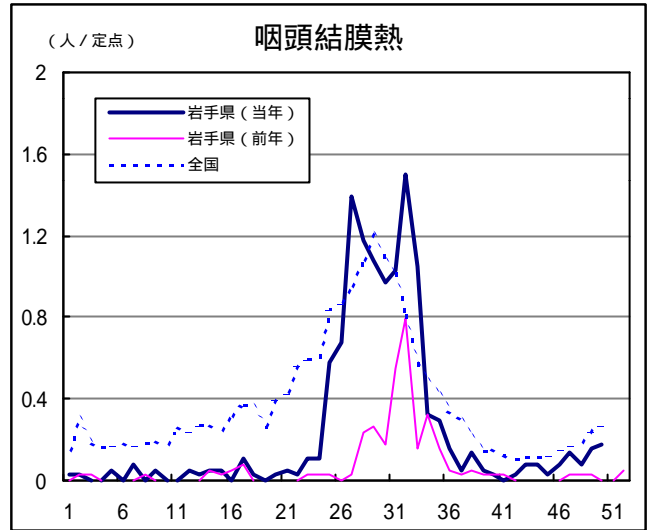
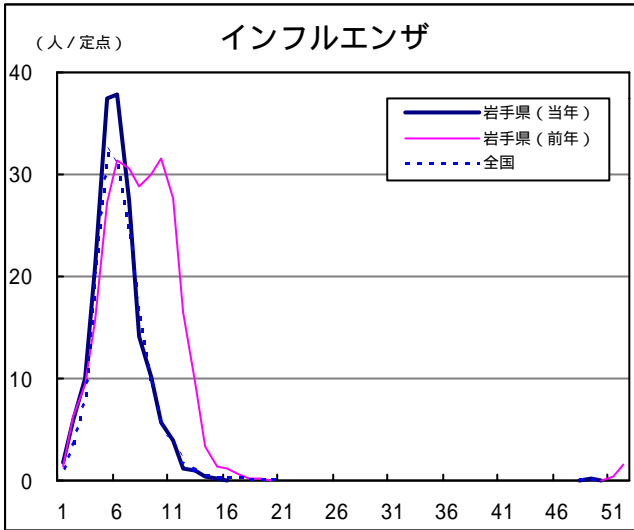
この週には医療機関からの情報ははありません。

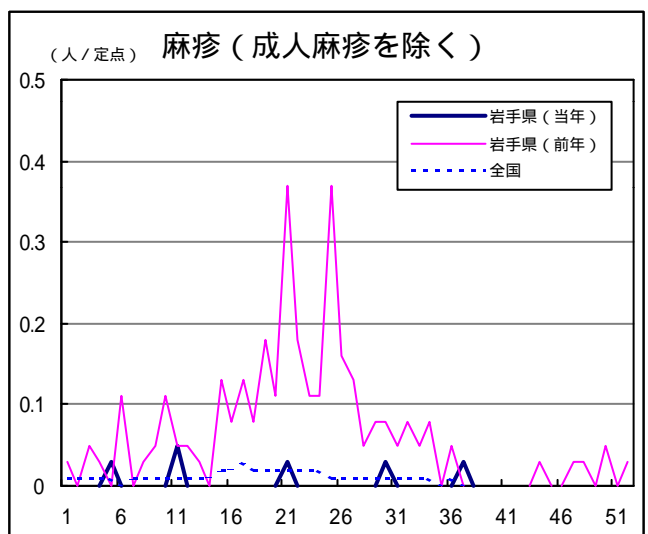
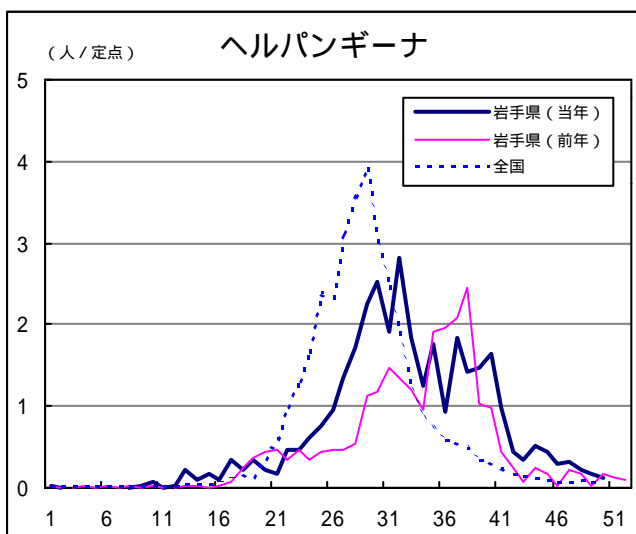
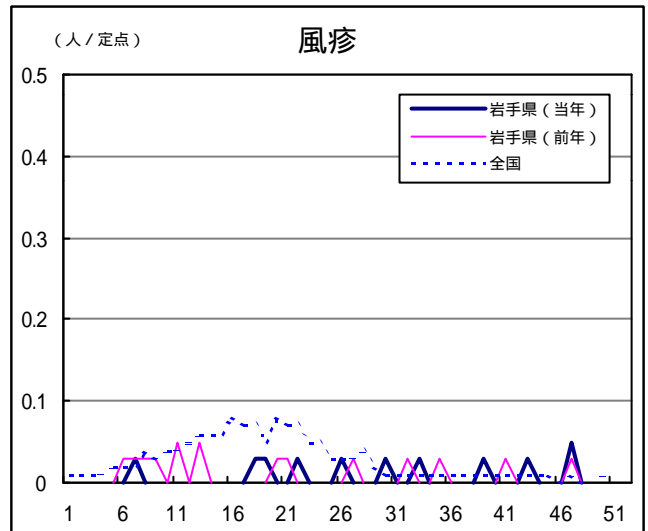
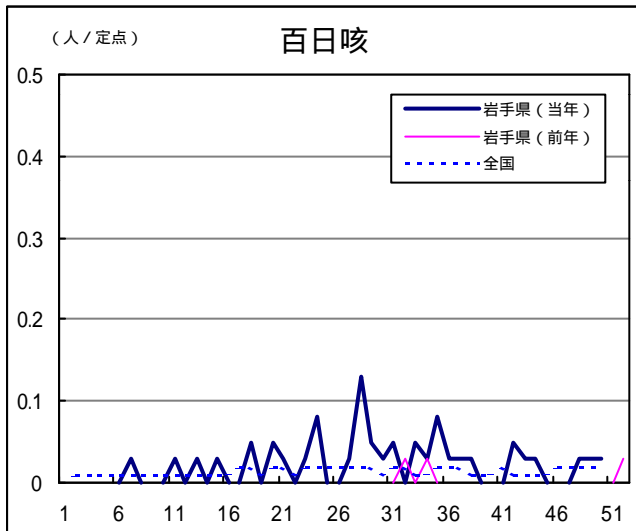
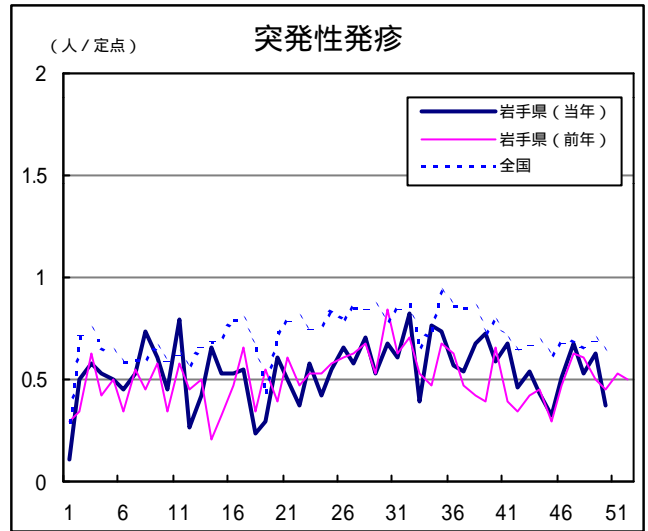
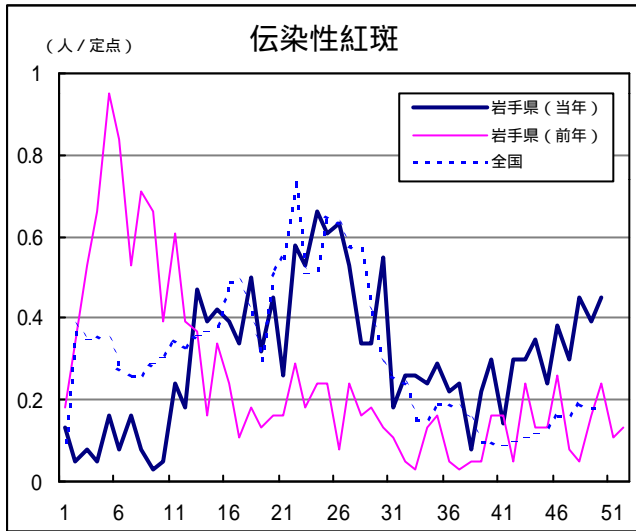
Q & A

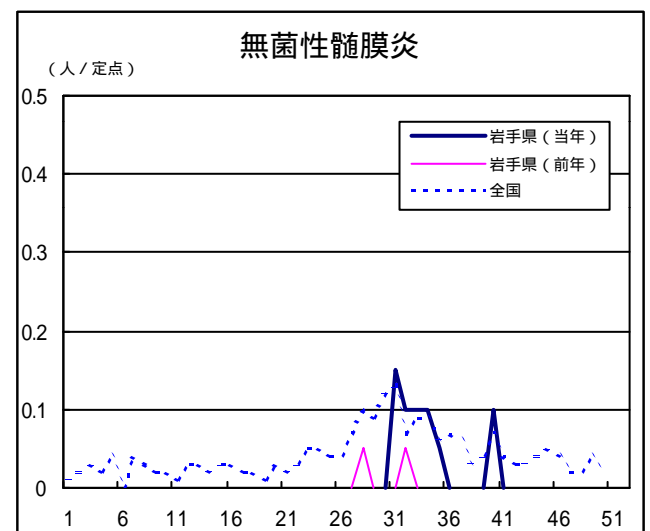
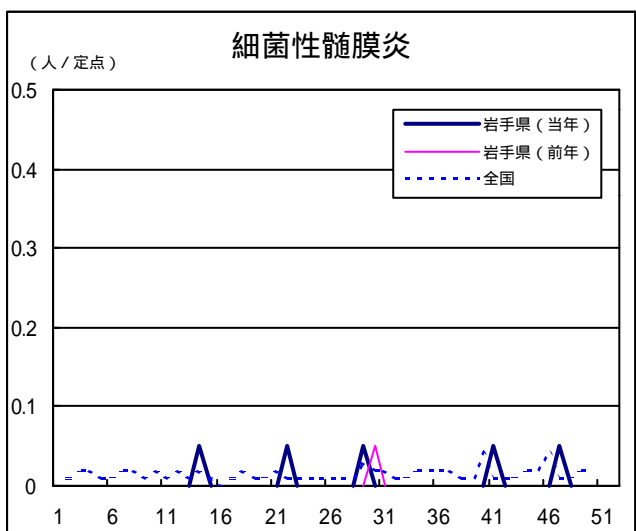
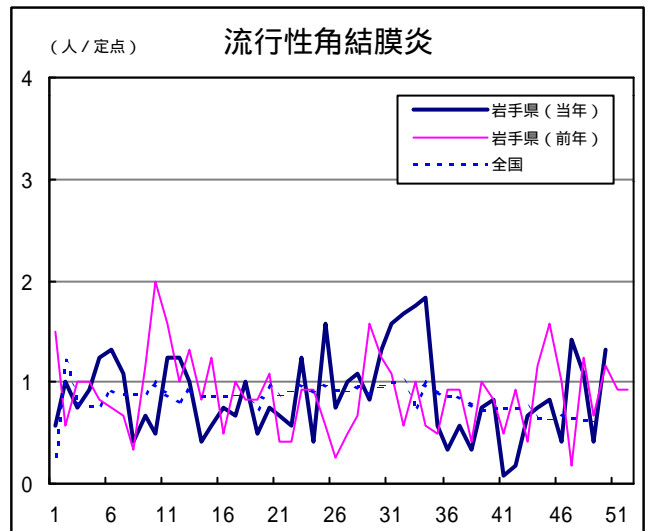
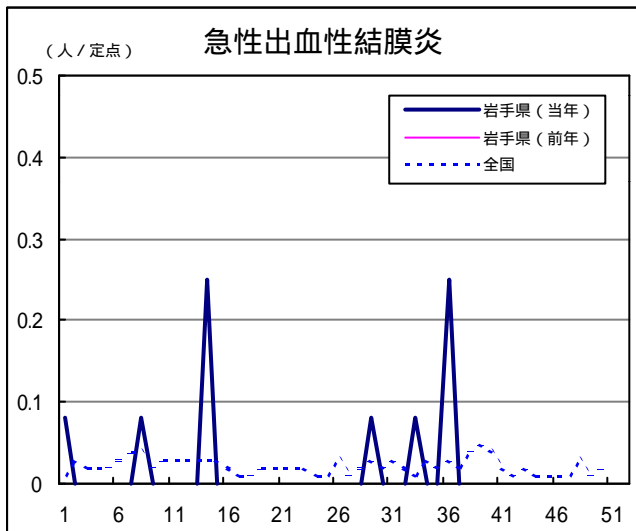
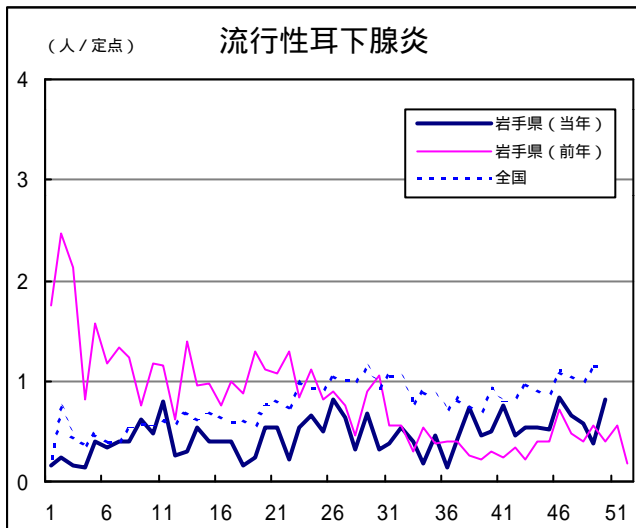
読者の皆様からのご質問にはこの欄でお答えします。

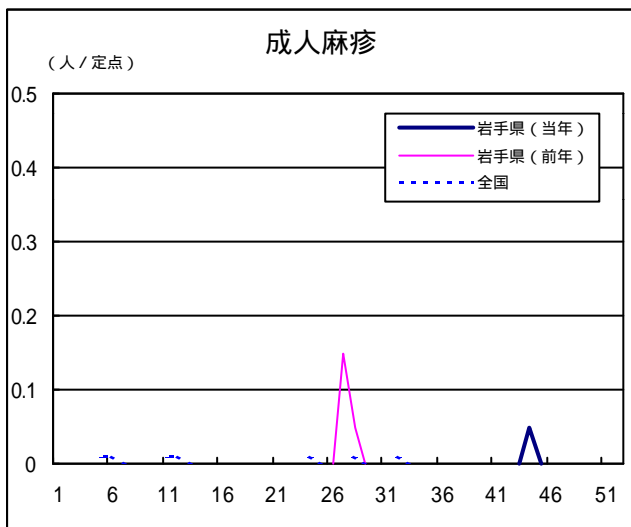
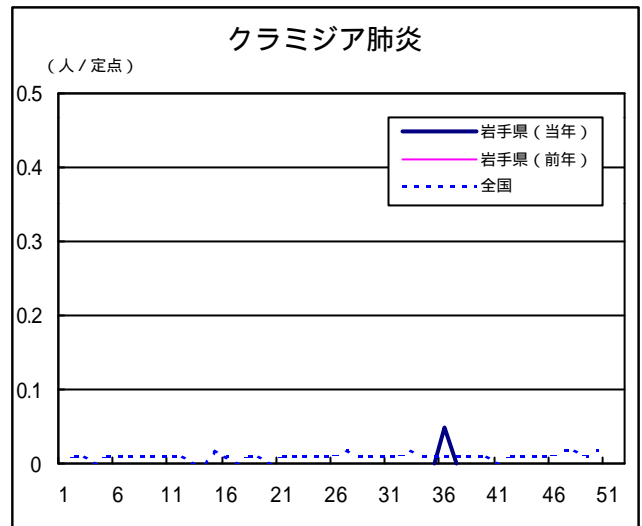
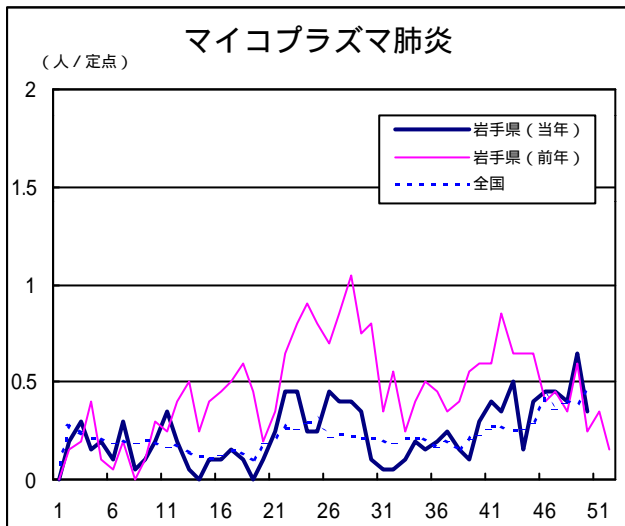
医療機関からの情報や読者の皆様からのご質問は下記の宛先までお寄せください。
岩手県結核・感染症情報センター（岩手県環境保健研究センター保健科学部内）
〒020-0852 岩手県盛岡市飯岡新田1-36-1
TEL:019-656-5669（直通） FAX:019-656-5667
E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

疾病別グラフ（定点あたり患者数の推移）









定点医療機関の数

地区	インフルエンザ	小児科定点	眼科定点	基幹定点
岩手県	62	38	12	20
盛岡	17	11	3	5
花巻	5	3	1	2
北上	5	3	1	2
水沢	7	4	1	2
一関	7	4	1	2
大船渡	5	3	1	1
釜石	5	3	1	2
宮古	5	3	1	1
久慈	3	2	1	1
二戸	3	2	1	2

岩手の感染症情報を毎週メールでお届けする
「岩手県感染症情報ウィークリーマガジン」を配信しています。
 配信の登録は以下のURLからお願いします。
<http://www.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/mailmagazine.html>

岩手県感染症週報 平成16年第50週 平成16年12月17日発行
 監修：岩手県結核・感染症発生動向調査委員会
 発行：岩手県環境保健研究センター
 岩手県保健福祉部保健衛生課
 事務局：岩手県結核・感染症情報センター
 (岩手県環境保健研究センター保健科学部内)
 〒020-0852 岩手県盛岡市飯岡新田1-36-1
 TEL:019-656-5669(直通) FAX:019-656-5667
 E-mail: CC0019@pref.iwate.jp
 URL: <http://www.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/>
 <岩手県結核・感染症情報センター>
<http://www.pref.iwate.jp/~hp0360/>
 <岩手県保健福祉部保健衛生課>